

製品名: NDR1/2 (リン酸化 Thr444/442) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05817**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	STK38
別名	Serine/threonine-protein kinase 38 (EC 2.7.11.1) (NDR1 protein kinase) (Nuclear Dbf2-related kinase 1)
遺伝子 ID	11329.0
SwissProt ID	Q15208
免疫原	ヒト NDR1/2 由来の合成ペプチド (リン酸化 Thr444/442)

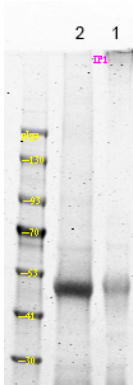
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: S100B の結合によって活性化さ

れ、自己阻害性の N ロープ相互作用が解除されます。これにより ATP の結合と Ser-281 の自己リン酸化が可能になります。その後、Thr-444 は上流のキナーゼによってカルシウム依存性リン酸化を受けます。リン酸化 Thr-444 と N ロープの相互作用は、キナーゼの活性化を完了させるさらなる構造変化を促進します。また、MOB1/MOBKL1A と MOB2/HCCA2 が STK38 の N 末端に結合することでも自己阻害が解除されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 細胞質に低濃度で存在する。サブユニット: ホモ二量体 S100B は STK38 の 2 分子と結合する。MOB1 および MOB2 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現し、末梢血白血球で最も高濃度で観察される。、

研究分野

画像データ



1:1000 希釈の一次抗体を用いて、1MCF-7 細胞 2 個を LPS 100 ng/mL で 30 分処理し、ウェスタンブロット分析を行った。二次抗体は 1:10000 希釈であった。